

<卓話～志熊昌宏様、演題「米山記念奨学事業の現状」>

過分なお紹介どうもありがとうございます。非常に恥ずかしくて下に潜りたいくらいのご紹介ですが、今日は米山奨学事業の卓話をさせていただくことになり、誠にありがとうございます。ちょっとお伺いするところ新しい方も相当いらっしゃるということなので、今回はわかりやすくお話ししたいと思います。

米山奨学事業というのは日本全国のロータリアンが個人で寄付をしてお金を出して海外から来る学生の人たちに支援、奨学金を与えようというものです。この奨学金の名前である米山梅吉さんは日本にロータリークラブを持ってきた人です。米山梅吉さんは、三井銀行・三井信託銀行・三井報恩会など三井グループの重責を担われたあと、学校事業では緑ヶ丘小学校、これは現在の青山学院大学の初等部ですが、こちらを設立しました。

アメリカにいたときにロータリークラブと出会いまして、東京ロータリーという日本で最初のクラブを作りました。例外はありますが、日本のロータリークラブはほとんど東京RCの何らかの子クラブであるということですが、どうやらちょっと違らしく、東京の東京RCと大阪RCというが出来たということですが、日本で最初にできたのが東京RC。その東京RCと関係なく大阪RCが、日本のRCの発祥だということをおうかがいいたしました。

1946年米山梅吉翁が逝去された。日本は第二次世界大戦のときに一時期国際ロータリーから脱退しました。そのあと1949年に日本のRCが国際ロータリーに復帰し、1959年東京RC古沢文作会長が米山基金の支援を発表しました。その米山基金というのはアジア諸国からの留学生を支援しましょうということで米山梅吉翁の遺徳をたたえるということでしたが、もともと米山奨学基金というのはアメリカの「フルブライト奨学金」を見習ったと言われています。

皆様聞いたことがあると思いますが、「フルブライト奨学金」というのは当時、戦後日本が敗戦国として、アメリカに戦争でいろいろと苦しい思いをさせられた。戦前から反米思想というのがあったのですが、フルブライトというのは日本を含めたアジアの国から来る留学生に奨学金を出して親米家、アメリカを理解してくれる人を育てようということで「フルブライト基金」を始めました。それと同じように当初はアジアが主体だったのですが、アジアからの留学生に奨学金を与えて親日家を増やしていこうということでした。

この奨学事業が他の奨学金と違うのは「世話クラブ制度」というのを作っております。御苑RCさんは今年設立されたばかりのクラブで、世話クラブを決めるときにはまだなかったので今回はお願いしておりませんが、奨学生一人ひとりに「世話クラブ」というかたちで奨学生のお世話をお願いします。それとともに「カウンセラー制度」ということで相談役、たとえば今一番よく言われているのは、日本のお父さん、お母さん、ちょっと年が近ければお兄さん、お姉さん役をしていただくことを「カウンセラー制度」としてありますが、このふたつをお願いしております。これが他の奨学金と全く違うところです。

奨学生の事業の特徴ですが、今年724名の奨学生に奨学金を出していますが、多いのは大学院の学生です。というのは、奨学生を選ぶ際には当2580地区では「指定校制度」というのを作っています。学校説明会に来てもらってロータリー米山事業の趣旨をご理解いただいて、例えば東京大学でしたら、何人推薦してくださいと推薦枠を出します。それをもとに教授推薦を加え大学経由にて推薦者が来ます。その推薦された方々を我々米山奨学委員会、パストガバナー、ガバナー、ガバナーエレクト等が選考面接等をして、奨学生を選びます。

昨年2580地区では新規の奨学生、東京は30名弱の奨学生を募集しましたが、応募に来られた

方が約 90 名いらっしゃいました。ですから倍率が 3 倍です。それだけ沢山の方が応募される中で、日本にいる期間が長い方、大学院の方、要するに選考される場所がよりわかりやすい方が受かってしまう。

海外学友会というのがありますが、当地区では二人の方をお受けしましたが、台湾、中国、韓国の学友会の方が推薦してそれを米山奨学会の理事会で承認して奨学生になるという方です。これは大学院、学部、短大の生徒がほとんどですが、海外学友会推薦という方は日本に来る奨学生の先生のような方。日本で共同研究者と一緒に研究しようというような方なので年齢も相当高く、今年二人来られたのですが、二人とも私と同じような年齢の方達でした。

国内最大の奨学事業ということで、年間 730 人。やはり日本に来る留学生は中国の方が多いので中国の方が非常に多くなってしまいます。ただ近年、累計で見ますと台湾の方は 18.3% になっていますが、台湾の留学生は今年は 4.8% で非常に下がっています。というのは台湾の方は最近日本ではなくアメリカに留学される方が多いのです。台湾の方に来ていただければ私共も非常に嬉しい、というのも変ですが、台湾の留学生の方はメインの留学先に考えているのがアメリカでして、台湾の代わりに増えているのがベトナムですとかミャンマー、そういう方が増えています。

台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴルに学友会があります。学友会というのは奨学生として 1~2 年終わった後に母国に帰って、そこでグループを作っていただくということです。いろいろな方からいろいろなお話をいただくのですが、よく言われるのが中国籍の米山奨学生の割合が多いじゃないかと。2010 年学年度が 50.8%、2015 年 39.3% まで下がっています。これはどうしてもしょうがない。留学生の推移ですが、昭和からいきなり増え、倍増しています。何十倍にも増えています、その中で一番多いのは中国の方。81,884 名、これは文部省 24 年 5 月 1 日のデータですが 60% 占めています。

台湾、3.5%。ミャンマー、モンゴルの方が多くなっています。台湾他いろいろな国に学友会がありますが、台湾、韓国、中国、モンゴルです。そのなかでも台湾の学友会が一番大きい組織になっています。

台湾の学友会の話ですが、米山奨学金事業というのは日本に来ている留学生に奨学金を出しています。それを台湾の学友は同じことで日本の米山奨学事業にお返しをしたいということで台湾学友会では学友がお金を集めて日本から来ている奨学生に奨学金を出しています。同じようにカウンセラーをつけています。今年は 4 名かな。非常に台湾の学友会というのは日本の学友に奨学金に感謝してご恩をいただいているということでございます。

活躍する学友ということで、この方は姫軍(ジジュン)さん。上海で弁護士として活躍されていますが、もともとは学生のときに共産党を批判するようなことをしたために、中国で職業がなくパスポートももらえませんでした。長年苦勞されて、1995 年東京臨海 RC に奨学生として留学生としてお世話になった。

韓国の大使になられた方ですが、在日韓国大使になられた方で親日の方はなかなかこのポジションにつけないのですが、親日の方で大使になられた。

徐さん、台湾の方ですが、台湾セブンイレブン、スターバックスを台湾に持ち込んだ方です。平塚 RC でお世話した方で、たまたま日本でセブンイレブン、スターバックスを見たということでそのシステムを日本から台湾に持って帰られた。台湾流通大手の企業の前の社長さんです。この方も台北東海 RC 初代会長で、この RC ほとんどの方が米山奨学生です。今でも昔の日航ホテル、今のロイヤル台北で例会をしています、すべて日本語で例会をしております。こういうクラブは 2 つありまして、東海 RC と台中にあるクラブが日本語で例会をしています。

モンゴルのジャンチブ・ガルバドラハさん。モンゴルの高校って 2 年で、国際標準ではないのです。

それでモンゴルで高校を出て海外の大学に留学するという事はカリキュラムが足りないで今までは不可能でした。ところが、ジャンジブさんは、当時ご家族で来られていて、お譲さんが日本の学校に通っていた。そういう日本の留学体験を生かし、日本の学校のシステムを見て、これは素晴らしいということで、そのままシステムをモンゴルへ持って行きまして、新モンゴル高校を作りました。今は小学校、中学校、高校、大学は新モンゴル工業大学という大学まで作りました。平成 25 年日本の外務大臣賞を受賞しました。安倍首相がモンゴルを訪問したときに、夫人がこの新モンゴル高校を訪問してジャンジブさんに会われています。このように海外からいろいろな方が日本の米山奨学事業にご恩を返すということをしていただいています。

これは「若手研究者対象奨学金制度」を台湾の学友会の方が作って下さっており、4 人の日本の奨学生が奨学金をいただいております。台湾の学友会の総会というのは非常に楽しく、心温まる学友会でございます、学友会全部が日本語です。だから我々が行っても全て日本語ですから話もわかる。私はおとし学友会の総会に行きましたが、テーマが「恩の倍返し」だ。これは何かといいますと、当時TVドラマで銀行をテーマにした半沢直樹が流行っていたのだそうです。それを文字って台湾では「恩の倍返し」ということになっているようでした。

米山奨学事業の運営費というのは利子でまかなっていますよ、ということで米山奨学事業で皆様からご寄付いただいたお金はすべて奨学生への奨学金に使っていますということの財務的な話になっております。

米山奨学金というのは学部の生徒で毎月 10 万円、院の生徒で 14 万円出ます。そのお金というのは皆様からいただいた寄付でまかなっています。ですから私共 2580 地区は世話クラブの方々には米山奨学生にロータリーの精神を教えていただきたい。そういうことでできるだけ多くの例会に参加するように私共は話しています。また他の寄付のお話をするとR財団の担当の方に怒られてしまうかもしれませんが、米山奨学事業はすべて皆様からご寄付いただいたお金は国内で回ります。奨学生がもらったお金は生活費に使うのか学費に使うのかまたは交友費に使うかわかりませんが、すべて国内でお金を使うことになっています。ですから日本で寄付していただいたお金が海外に行ってしまうことはございませんので、基本的に国内循環ですから日本の経済にも効果を持っているということです。

米山奨学事業はすべてロータリアンからの寄付で成り立っております。全国から見ますと、全国平均は 15,996 円、当地区の寄付は 18,366 円、全国で 11 位です。去年は 18,600 円ちょっと。去年より少し多くて 8 位でトップ 10 に入っていました。ところが今年はトップ 10 から落ちてしまいました。金額はほんの少しですが。ですからロータリアン一人ひとりの寄付額というと 11 位です。一番多いのは横浜 2590 地区で、3 万円を軽く超えています。

米山の寄付につきましては、普通寄付と特別寄付がございます。普通寄付というのは皆様会費から頭割りしてR財団とか米山奨学金ということで一人いくらということで、もともと人頭割りでいただいているのが普通寄付です。特別寄付というのは個人がそれぞれ寄付していただくものです。法人も当然寄付できます。当地区の場合は普通寄付が 6,711 円、というのは各クラブの独自性に任せております。特別寄付は 11,650 円。当地区の寄付が多いのは普通寄付が一人平均 2,000 円多いので 11 位になっていますが、特別寄付でいうと全国平均とほとんどかわりません。当地区の傾向としまして、普通寄付は多いけれども特別寄付は少ないのかなというところなんです。

普通寄付が一番多いクラブはどこかというところと東京クラブでございます。米山奨学事業の始めを作ったクラブですので、やはり東京クラブからは多大なるご寄付を頂いております。ただ寄付につきましては過去 5 年間で最高額になっております。というのは、一番上の赤いところですが、基本財産特別積立金取り崩しのお金です。それがなく今回積立の取り崩しがなく特別寄付、普通寄付のみで 9 億 9500 万円の特別寄付と 41,900 万円の普通寄付、約 13 億の寄付をいただきました。この寄付に

より奨学生 700 人の奨学金をまかなっているという状況でございます。

皆様をお願いしたいことがございます。米山奨学事業の中で本地区が何人の奨学生を受けたかというお話をしました。来年 4 月から始まる事業年度では、38 名の奨学生を預かることができました。これはすべて寄付額によります。寄付が多ければそれだけ米山奨学生の人数も多くなる、逆に寄付が少ないと米山奨学生の数が少ないことになります。ですからできれば米山奨学事業の始めを作った東京クラブがある本地区がどんなことがあってもトップの数字にないと、ちょっとみっともないのかなと思う次第でございます。

今年、鈴木喬ガバナー、毎回ここ数年言っていますが、本地区の目標額は特別寄付、普通寄付をあわせて 2 万円、これをお願いしたいと言っています。こちらは会員数が 50 名としまして 2 万円ですといくらになるかというのは会長、副会長とご相談していただいて、できるだけ多くの金額をいただければと思っております。

先程黒岩会長から、来年は是非世話クラブをやりたいと言っていただきました。私は 12 月末で委員長をおりますが、来年は新しい委員長が担当します。御苑 RC さんに是非世話クラブをお願いして米山奨学生を見ていただいて、米山奨学事業がどういうものなのかということをご理解いただくためには奨学生を直に見ていただくことが重要だと思いますので、是非世話クラブをお引き受けいただきたい。また是非沢山の寄付をいただければと思っております。

今年度の鈴木喬ガバナーは米山奨学事業への寄付は一人 2 万円ということを行いました。ガバナーは非常に寄付に対していろいろと皆さんをお願いしておりまして、まずひとつは「ロータリー希望の風」にも寄付ちょうだいね、と言っています。もうひとつは「バギオ」にも寄付してちょうだいね、と言っています。またもうひとつ「米山」もそうですが、「米山梅吉記念館」にも寄付をお願いしますと言っています。

「米山梅吉記念館」とは何かといいますが、米山梅吉さんはもともと東京の芝、愛宕の生まれなんです、お父さんがなくなってお母さんの実家である静岡県の三島の長泉に戻った。その生家に米山梅吉記念館というのがあります。その運営というのは 2620 地区静岡と山梨の地区ですが、そういう地元のクラブ、地区が中心となってその運営に当たられています。先程会長から移動例会を梅吉記念館でという話もありましたが、梅吉記念館ははっきり言いまして財政が厳しい状態です。梅吉記念館今日の『ガバナー月信』の私のつたない文章の上に戸田一誠パストガバナーが書かれた梅吉記念館の記事がございます。是非そちらを読んでいただいて寄付をしていただければと思います。

梅吉記念館へ行きますと梅吉翁がどんな人だったのかということがわかると思います。また当時、米山梅吉翁が三井信託銀行で使っていたと言われる机も飾られております。はっきり言って 100 年前…1 世紀前の方なので実感というのは湧かないと思いますが、梅吉記念館へ行かれていろいろな資料を見ていただいて、梅吉翁の足跡を見ていただければ非常に身近な存在になると思います。是非、御苑 RC の移動例会をしていただいて、三島は非常に鰻がおいしいですから鰻を食べて、帰りもゆっくりとお帰りいただけるようなプログラムを組める場所がございますので、是非、梅吉記念館のご支援のほうもお願いしたいと思います。

駆け足でございまして申し訳ございません。また今回初めて米山奨学事業のお話を聞かれる方が多いとお聞きしましたので簡単な、と言いますか入り口のところをお話しました。是非また機会がございましたら、今度は我々地区委員会が、何をもち米山奨学事業を地区でやっというかと考えたかをお話させていただける機会がありましたら、是非呼んでいただければと思います。つたないお話で誠に申し訳ありません。今日はいろいろと聞いていただいてありがとうございました。卓話の貴重な時間、ありがとうございました。(終わり)